

左京東部 いきいき通信

Vol.4
March.2016
発行：左京東部いきいき市民活動センター
発行日：平成28年3月1日

左京東部いきいき市民活動のハナシ

昨年4月より、文化振興を主な目的とするNPO劇研が当センターを指定管理することになり、早いもので1年が経ちました。市民活動センターとは何をすることで、会議室・多目的ホール・和室・料理室・集會室という施設が、実際はどのような目的に使われているのでしょうか。

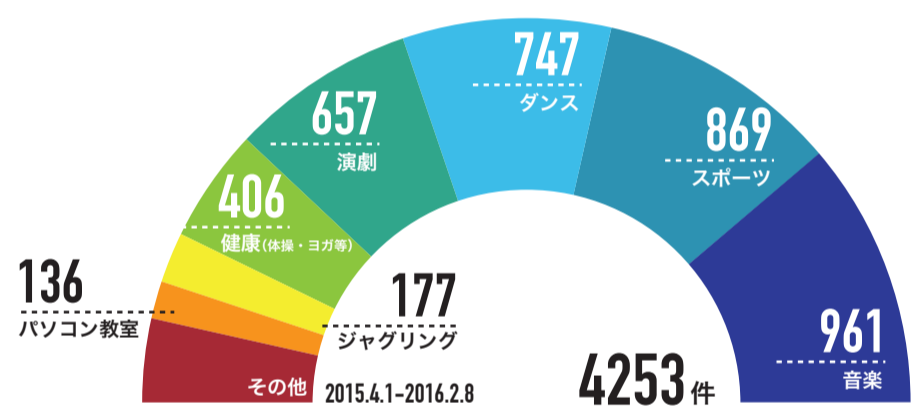
まず市民活動とは何のことかといえますと、より良い地域社会の形成に貢献してきた地縁組織や各種団体の活動、ボランティア活動、NPO(民間非営利組織)による活動、企業の社会貢献活動など、個人または団体が行う広範かつ多様な活動で、次のすべての要件を満たすものを「市民活動」と定義する。

- ・ 自主性、自立性に基づく活動
- ・ 営利を目的とせず、市民の社会参加の推進を目的とする公益活動
- ・ 政治、宗教活動を目的としない活動
- ・ 活動の公開性と運営の民主性が保たれている活動

ということで個人的な趣味や嗜好にとどまらず、他者や社会と交わることで広く公益性を有する活動のことです。今号では当センターの利用者さんの中から、その活動の公益性に着目し、幅広い分野で活躍されている方に取材をさせていただきました。はじめは個人的な趣味から出発したならんかの活動が、次第に他者や社会とつながり公益性を帯びてくる。そんな活動をじわじわとサポートすることが、いきいき市民活動センターの役目だと思っています。

この1年のうちセンターに申請された利用目的別のグラフをご覧ください。多くの部屋が会議室という名前の施設ではありますが、実に幅広い目的でセンターが利用されていることがお分かりいただけるかと思えます。

音楽	961	交流会	12
スポーツ	869	サークル活動	8
ダンス	747	あそび	6
演劇	657	撮影	5
健康(体操・ヨガ等)	406	控え室	4
ジャグリング	177	オリエンテーリング	3
パソコン教室	136	支援	3
勉強会	82	映画	2
絵画	63	茶道	2
会議	53	研修	2
料理	40	華道	1
絵手紙	13	スピーチ練習	1
合計 4253 件			



マイムパフォーマー 室田敬介と Dance Project Revo 主宰 田村興一郎によるお笑いダンスユニット。福祉施設や、地域イベントなどを周ってパフォーマンス活動をしている。詳しい情報はこちら → <http://danceprojectrevo.wix.com/dance-project-revo>

田村さんは「最初はコンテンポラリーダンスをもっとたくさんの人に知ってもらおうという想いがあった」そうです。一方、室田さんは「もと口下手で他人と関わるコミュニケーションの部分で悩みを抱えていた時期がありました。そんなとき身体をとおして人と関わる・身体で話すこと(身体をとおして伝えられるものがあること)に開放感を感じたといいます。ダンスの楽しさを色んな人と共有したい。普段ダンスをしていて関わる人たちがちがいで、どうしてもダンサー同士になりがちで、ダンスを専門にしている人との間の区切りのようなものを感じる。それを取り除きたい気持ちがあった(室田さん)」



ムロタムラ

「あつた(室田さん)」
出会った人との縁で、いくつかの保育所や福祉施設に呼ばれるようになりました。お客さんの反応はどうだったのでしょうか。
「こともが舞台にあがってきてごちらの段取りが邪魔されてしまうのではないかと、という想いで初めは緊張しました。しかし子供たちの反応は、ダンスという言葉を介さない表現で、とてもストレートに喜んでくれた。最初あったコンテンポラリーダンスをもっと知って欲しい、という想いが、活動するうちにただ身体で遊ぶ・純粋な気持ちでダンスをしたら面白い、ということだけを伝えるだけでいいなと思っただ。そこを入口にコンテンポラリーダンスや表現芸術に踏み込んでいく人がいたらいいなと思うようになった。これからもお笑い・ふれあいを大事に、難しく硬く考えずに見えていて楽しめるダンスをやっていきたくです(田村さん)」
取材：長谷川

利用者さんに聞く②
INTERVIEW



京都市左京区を拠点に、英語と数学を教える塾「岩倉英数研究会」代表の瀧セージさんにその実にユニークな勉強の方法論と無料学習相談についてお話を伺いました。

「岩倉英数研究会」で英語と数学を教える瀧さんは、インターネットで英語と数学を無料で学ぶことができる講義動画を配信しています。

「勉強する気持ちがある人はみな、等しく教育を受ける権利がある。無料で教育を、という取り組みは海外でたくさんおこなわれているが、日本は遅れをとっている。日本でもし無料で勉強したいのであれば、相談してほしい。授業はもちろん有料ですが、勉強の方法論(こうしたら必ずできるよ)は無料です。」と話す瀧さんの非常にユニークな勉強法についてのお話を伺いました。

瀧さんは「僕のやり方は、無責任英会話、妄想英会話、嘘つき英会話なんです。」と話す。「日本人が英語を話そうとする時、要領オーバーになって話せないわけです。そこで、その要領を細分化します。要領オーバーとは『真実であること、論理構造が意味をなしていること、文法が正しいこと、文単位で意味をなしていること、適切な単語を用いていること、発音が正しいこと』を同時におこなおうとすることで起こります。それを上手く切り分けて練習するための方法論として、論理に責任をもたない練習法であるとか、真実を言わなくていい練習法であるということです。」

「スペインに行ったことがありますか？」

「いえ、ありません。」

「Have you been to Spain? No, I haven't. ありませんでは話が終わってしまう。これでは新しい表現が身に付かない。僕はそこで必ず生徒さんには、①本当のことを答える、と②嘘をつく、の2パターンを作ってもらいます。行ったことがありますよ、と。あれは、なんという所だったかな、トマトを投げたけれど…青いトマトもあればなんだか紫のトマトもあったな、と好きなことを言う。かじってみたらなんだか日本のトマトと違ってしょっぱかったな、と延々と英語で好きな話をするとしたら、」「しょっぱいを英語で何というかわからないが、No, I haven't で終わってしまったら何も伸びないわけですよね。ところが、It was salty.(しょっぱかった)それを辞書で調べて言えるようになる。嘘をつくことによって、言語能力が上がるわけです。」

瀧さんが作成したインターネットの動画で、延々と瀧さんが英語でヤカンに話しかけているユニークなものがあります。ヤカンに話しかけるのは、「実は英会話を練習するのに話し相手はいらないからです。英語で話をする時には、ひとつひとつの言明(言葉に出して、はっきりと言い切ること)の塊が、普通の日本人の3倍〜5倍と思っていればいいので、こと『話し続ける』練習をするためには、無生物に話しかけるほうが実際に人と話をするよりも手軽に英会話能力が伸びるのです。」

お話を伺ったこの日は、「今日僕は架空の会社を作ったんですよ。」とのこと。

「架空の会社名は、MSJ。メガ・ステイショナリー・ジャパンという会社で僕は営業部に所属しているんです。TOEIC 対策はビジネスパーソンが点数を取りやすいような仕組みになっています。しかし、多くの人はビジネスパーソンの経験がありません。そこで、架空の会社を作って、TOEIC の過去問を用いその会社の中で過去問内のやりとりを実際の英会話ですることによって、英語力とビジネスセンスの両方をつけていくという学習法です。名刺もつくる。MSJ の販売物は文房具。同僚がいます。この営業部の上に、営業統括部門というところがあり、同僚3人が正しくない報告をする。正しく情報が伝わっていないわけです。その状況を見て、誰々がこのようなことを言っているのが正しい、もしくは間違っているという説明を(英会話の)生徒さんがつとめます。それが自分でできれば、ビジネス英会話が身に付きます。」瀧さんはここでひとつの英語の問題を手にとってお話を続けてくれました。

「4つの設問があります。4つのうちどれが正しいか、もしくはどれが間違っているのかを答えよ、ではなく4つの設問について、正しいものにはなぜ正しいのか、間違っているものにはなぜ間違っているのかその理由を英語で自問自答せよ。相手がいなくても会話ができればそれがわかる。その象徴としてのヤカンです。一見コミカルに見えるがそれが理論です。僕は高校も大学も行ってないし海外に住んだこともない。外国に住まなくても、英語が話せるようになるのは、自分自身との対話をすることによってできるのだということシステム化しているのです。理論と方法論について、だいたい1時間あれば説明が可能です。それをすれば、あとは僕の授業を受けなくてもいい。無料で自分で勉強ができる。そこは自由。」

美術家の小山田徹さんとの取り組み「英語BAR」についても話を伺いました。これは瀧さんと小山田さんがマスターの店内では英語しか使っちゃいけないというBARのことで、店内は入国(店)審査があり、そこは日本ではないという設定です。日本語は使わない、辞書を使ったら10円徴収というルールで過去2回おこなわれたイベントです。

「小山田さんとの話の中で、なぜ日本人は英語が話せないのか、それは生真面目でちゃんとしないとイケないという意識が、邪魔をしているからだということになった。お酒を呑んだら、みんな Oh, Yeah!! Oh, Yeah!! というテンションになるかもしれないということをやってみたらそうだった(笑)。それと先ほどの無責任・妄想・嘘つき英会話は全部繋がっている。人間、無責任になったらよく喋ります。何を言っても許される状況だと人はよく喋る。こどもってよく喋りますが、大人になると「わきまえ」というものを知っていく。「わきまえ」の中の範疇で話していくのだけれど、それが時にはものすごく縛りになってしまう。真面目な人ほどそうでしょう。そういったものを一回外してやるというのが自然な言語能力の育て方だろうと思います。」

一見コミカルであったりネガティブであったりするものを、まったく違う角度から捉え直した上でとてもポジティブなものに変換してしまう瀧さんの発想の瞬発力は、独創的にみえるけれど、聞いているとなるほどなあと感心してしまいます。実際に無料相談は英語や数学の勉強に関係するものだと思いますが、他には瀧さんと公園で缶コーヒーを飲みながらただ話をする、という機会を持つことで引きこもりの方が社会復帰したというエピソードも伺いました。お話をいろいろと伺って、相談した方がポジティブな気持ちになるのがわかる1時間を過ごさせていただきました。

取材：長谷川



瀧セージ

岩倉英数研究会代表、NPO 学習学協会認定英語学習コーチ
京都造形芸術大学ゲスト講師(英語力基礎C)、株式会社テクノブレイン声優
more info → <http://exelatete.wix.com/math-and-english>

センター長のいきいきコラム

『いい出会い』

センター長 杉山準

恥ずかしながら、若い時には地域行事や地域活動への参加には消極的でした。子供ができ、子供会の活動や地蔵盆などへ関わらざるをえなくなって、やっと重い腰を上げたようなものです。ですから、「地域活動に参加しよう」などと強く言えたものではありません。NPO 活動にしても、小劇場の運営からスタートした私たちは、そもそも儲からない状態に合せて非営利法人への道を選んだようなもので、最初から「公益」を強く意識したものではありませんでした。活動に参加したり、さまざまな事業を行っていくうちに、徐々に地域活動の大切さがわかってきたり、公益事業者としての使命を感じるようになってきたのです。

組織も人も成長し、それに従って意識や考え方も変化するのだと思います。「公益活動をしようという気持ち」も最初からある場合は少なく、むしろ多くは育まれるのではないのでしょうか。そしてその多くは、人との出会いによる気がします。私たちも、そんないい出会いのつなぎ役として、そしてまた私たちとの出会いが、いい出会いとなれるよう成長していきたいものです。

左京東部いきいき市民活動センター

市民活動を活性化するための事業運営・市民活動に関する相談・施設の貸出しをおこなっています。

- 施設の貸し出し
料金(1時間)
会議室・和室：100円
集会室：200円
多目的ホール・料理室：500円
- 市民活動に関する相談
- 市民活動に関する情報公開
- 貸しロッカー(800円/月)

左京東部いきいき市民活動センター
〒606-8432 京都府京都市左京区鹿ヶ谷高岸町3-2
TEL: 075-761-1385 / FAX: 075-752-3350
MAIL: info@se-ikiiki.com
URL: http://gekken.net/SE_IKIKI/
開館時間：10時～21時(日曜日は17時まで)
休館日：火曜日・年末年始(12/29～1/4)
※高齢者ふれあいサロンは10時～16時半
火曜日、日曜日及び年末年始が休館日です。
アクセス：京都市営地下鉄 蹴上駅より徒歩15分
バス停「東天王町」より徒歩5分
※駐車場はございませんので、公共交通機関もしくは最寄りのコインパーキングをご利用ください。

